

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3690300011	
法人名	社会福祉法人小松島敬和会	
事業所名	グループホームひかり	
所在地	徳島県小松島市坂野町字椋のべ35番地	
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和5年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カレンダーづくり、季節にあった塗り絵、張り絵等を充実させたり、ADL維持の為の機能訓練(歩行訓練・自走訓練・立位訓練・屈伸運動)を実施している。初詣・お花見やコスモス畑等に出かけたり、苑庭でお弁当を頂いたり、屋外に出かける機会を多く持つ様にしている。医療、看護、介護が連携し、体調不良や急変時又は終末期等にも速やかに対応が出来る体制を整えている。重度化した場合には隣接する、家族や本人の環境が変わらずサービスの継続が出来る様に、隣接する特別擁護老人ホームとの情報を共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った、周囲に田畑が広がるのどかな環境のなかに位置している。敷地内には、同一法人の運営する他サービス施設や事業所が併設し、災害対策や健康管理、看取り対応等で連携を図り、利用者や家族等の安心に繋げている。“住み慣れた地域の中で、安心と尊厳を守ります”という理念を掲げ、職員間で共有しつつ、理念にもとづいた支援に努めている。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出が制限される状況においても、日ごろから近隣の散歩や少人数でのドライブを行い、可能な限り外出支援に取り組み、地域の一員として暮らし続けることができるよう支援している。また、“〇〇の日”と名称をつけたメニューを設けるなど、食事が楽しみになるよう工夫している。利用者の希望に応じて、毎日入浴できるよう取り組み、清潔保持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲げており、毎朝の申し送り時に理念を復唱している。	事業所は、地域密着型サービス事業の意義を踏まえた理念を掲げている。理念は、玄関やスタッフルームに掲示するとともに、毎日唱和することで、共有化を図っている。職員は、理念を意識した支援を心がけ、利用者や家族等の安心に繋がるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、窓越しであるが、ご親戚の方や、ご近所の方の面会は、臨機応変に対応している	事業所は、感染症(コロナ等)の流行下において、事業所周辺の散歩の際に、近隣住民と挨拶を交わしたり、差し入れを受けたりして地域と交流している。感染症終息後には、現在、事業所内で開催しているオレンジカフェや行事等に地域住民の参加を得ることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各事業所の問い合わせには、出来る限り対応し、見学なども柔軟に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、資料を配布し、問い合わせなどには、個々に対応している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下においては、事業所の状況や行事、感染対策、委員会等の取り組み状況を書面にまとめ、各委員に報告しているが、各委員から意見や提案を得て、双方向的な会議となるまでには至っていない。	今後は、事業所の報告等に関して、各委員から意見や提案を得ることができるよう会議の実施方法について創意工夫することが望まれる。各委員から意見等を得て、職員間で共有することで、サービスの質の向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に1度、入居者人数の報告に訪問し、その都度事業所の実情を伝えている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、実績報告書等を提出している。日ごろから、市担当者や地域包括支援センター職員と情報交換や相談を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に一度行い、(職員・利用者参加)勉強会を行っている	事業所では、毎月、身体拘束委員会を開催し、身体拘束について職員間で話しあっている。定期的に勉強会を行い、身体拘束の弊害等について正しい知識の共有化を図っている。職員間で不適切ケアについても話しあい、相互に注意喚起する体制を整備している。日中は、玄関を開錠し、見守りにより、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を疑われる事故や怪我には、その都度、話し合う場を設け、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われる利用者が活用出来る様に、地域包括と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用中の料金改定などには、前もって文書でお知らせし、不安や疑問を生じたご家族には、個々に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・要望は面会時間き取り、事業所での出来事は、運営推進会議の資料として配布している。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、意見や要望等を聞き取っている。家族等からは、来訪時や電話連絡の際に、意見等を聞いている。定期的な事業所だよりで、利用者の状況を伝え、意見を引き出すことができるよう努めている。把握した意見等は、職員間で共有・検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議やカンファレンスの時間を設け、意見や提案を聴き、耳を傾け、実践出来る様にしている。	管理者は、日ごろから職員が意見や提案等を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。毎日の朝礼や月1回の職員会議の際に、職員の意見等を聞く機会を設けている。把握した意見等は、月1回の合同カンファレンスで代表者に伝え、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は、管理者や職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、理事長に報告してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質を向上させていけるよう、指導係を設け、職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、合同カンファレンスを設け、管理者や職員が交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もない時期は、担当の職員が傾聴する時間を設け、本人の不安な事や要望に耳を傾け、信頼関係が築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と話し合い、家族の気持ちを受け止めたり、耳を傾けて、信頼関係を築く努力をしている。(現在は、電話での対応をしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、福祉用具のレンタルや、各種のメーカーに相談し、利用者や家族に安心し、納得して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でのお手伝いを通じて、やりがいや必要とされている事を感じて頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が家族にお手紙を書いたり、ひかり便り等で近況を報告し、遠方の家族様にもより良い関係が築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、窓越しであるが、ご親戚の方や、ご近所の方の面会は、臨機応変に対応している。(コロナ禍で、積極的には、外出していない)	事業所では、感染症の流行下において、利用者が友人・知人と窓越しで面会や電話のやりとりができるよう支援している。少人数で馴染みの場所へドライブに出かけるなど、工夫しつつ、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、車いすを押して頂いたり、計算ドリルを教え合ったり、食事の声かけをして頂いたり、孤立せず、助け合う事ができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を持続し、必要に応じて本人や家族の相談や支援をフォローし、見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握し、職員会議やカンファレンスで意見を出し合い、利用者の思いや希望に添うように務めている。	職員は、日ごろの利用者とかかわりのなかで、会話や表情、仕草等から意向の把握に努めている。また、担当職員が主となって、家族等から意見や情報を得て、職員間で共有・検討し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や生活環境を把握し、居室には、ご家族の写真を飾ったり、馴染みのタンスやかばんを持ち込んで頂き、自分らしく生活出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の報告や、カンファレンスで心身の状態や本人の状況を把握し、チームとして支援出来る様に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い苑生活ができる様に、本人や家族の要望や希望に臨機応変に対応出来る様に努力している。	事業所では、利用者や家族、医師、関係スタッフで話しあい、本人本位の介護計画を作成している。3か月に1回、モニタリングを行い、6か月に1回、計画を見直している。本人の心身状況の変化に応じた見直しもを行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日管理日誌・夜勤日誌・個人日誌に記録し、申し送り時報告し、情報を共用し日々の苑生活のケアに活かされる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所と連携し、柔軟な支援を臨機応変に対応出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来苑や、民生委員の訪問等を行い、地域の方との交流もしていたが、現在は、コロナ禍の為、遠慮してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院と連携し、専門医への受診時には、紹介状を準備して頂いたり、予約をとって頂いたりしている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。毎日、協力医療機関から個人往診がある。専門医の受診は、家族等の協力を得て、臨機応変に支援している。夜間や緊急時も連絡可能な体制を整備し、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師には、往診時相談し、訪問看護師には、必要に応じて相談し適切な治療や受診が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の同意のもと医療機関に情報を提供し、退院した後も、家族や本人と話し合いながら、スムーズに苑生活が過ごせる様に、積極的な支援を行う様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、簡単な終末期のあり方について説明をしている。家族の希望に添うように、職員全体で情報を共有し、医療・看護・介護で連携し支援出来る様に努めている。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における意向を確認している。主治医や関係者と相談し、対応方針の共有化を図っている。訪問看護や併設施設の看護師とも連携を図りつつ、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時、適切な対応できる様に、定期的に話し合い、慌てないで行動がとれるように訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の発生時備えて、食料や飲料水を備蓄している。避難訓練は、隣接する施設と定期的に行っている。	事業所では、年2回、日中と夜間の火災を想定した事業所独自の避難訓練を実施している。併設施設と合同での訓練も実施している。2階ユニットから階段を使用して併設施設へ避難するなど、実践的に取り組んでいる。備蓄品や併設施設との協力体制を整え、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を否定しない声かけをする様に指導している。不適切な言動をしていないかを常に確認し合う事が出来る様に努めている。	職員は、日ごろから、利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳の確保に努めている。入浴や排泄の支援の際には、ドアやカーテンを必ず閉めるなど、他の人の目に触れないよう注意している。法人で開催しているプライバシーや個人情報保護に関する研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し、苑生活の中で、信頼関係を築くことが出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や就寝の時間は、自由に本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの衣類を家族にそろえて頂いている。散髪は、定期的に職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、使い終わったコップ等の回収は手伝って頂いている。	事業所では、3食、事業所内で調理している。食事を楽しむための支援として、行事食やおやつづくり、日ごろの“〇〇の日”と名称をつけたメニュー等工夫している。利用者には、できることで準備や片付けに参加してもらい、やりがいに繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が把握できる様に、チェック表を作成をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔を保つ様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全て利用者は、トイレ介助を行っている。認知症状が進行している利用者は、定時にトイレ介助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それぞれの状況に応じて、トイレ誘導を行っている。トイレには、利用者が目で見てわかりやすい目印をつけることで、場所を把握しやすい工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、便秘時には下剤などを使用し、排便のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔を保つ事が出来る様に、入浴は、毎日行っている。体調により、シャワー浴や清拭で対応している。	事業所では、毎日、利用者一人ひとりの希望に応じて、入浴することができる体制を整えている。車イスの利用者は、職員2人で支援するなど、安心して入浴できるよう取り組んでいる。また、季節に応じてゆず湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、自室でくつろいでいる利用者もいる。ホールでテレビを見たり、おしゃべりをしたり自由に過ごせる雰囲気づくりに務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、処方箋やお薬の説明書は、ファイルに綴じ、副作用や用法が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が好きな利用者さんは、編み物、歌が好きな利用者さんは、歌番組を見たり、勉強が好きな利用者さんは、計算ドリルを熱心にして過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減ったが、初詣やお花見、コスモス畑、等のドライブは行っている。	事業所では、日ごろから近隣の散歩に出かけたり、外気浴を行ったりして、気分転換を図っている。少人数でドライブに出かけるなど、感染症の状況に応じて、可能な限り外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症も患っているため、苑ではお金を所持していない様になっている。必要な物は、家族が購入してくれている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にお手紙を家族あてに出したり、家族からの電話は、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで過ごす時は、座席が決まっている。ホールや廊下の壁面に利用者さん本人が作成した塗り絵や張り絵を飾って季節感を感じとって頂いている。(鏡餅・お雛さま・七夕飾り・クリスマス)	共用空間は、日当たりが良く、室温や家具配置に配慮し、利用者にとって居心地のよい空間づくりを行っている。利用者とともに作成した季節の作品を飾るなど、季節感や温かみを感じることができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士が居室でお話したり、日当たりの良い空間にイスを設置して過ごしている時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたないタンスや、ご主人さまの仏壇や家族の写真を飾ったり、本人の好みに合わせて、居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。	居室には、馴染みの家具や調度品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。利用者や家族、職員で話しあい、家具配置を行い、動線を確保するなど、安心・安全かつ居心地のいい環境づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL維持の為に歩行練習や立位訓練等を実施している。介助が必要な利用者さんには、杖・歩行器や車いすを使用し、出来るだけ自立した苑生活が送れる様に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲げており、毎朝の申し送り時に理念を復唱している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、窓越しであるが、ご親戚の方や、ご近所の方の面会は、臨機応変に対応している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各事業所の問い合わせには、出来る限り対応し、見学なども柔軟に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、資料を配布し、問い合わせなどには、個々に対応している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1度、入居者人数の報告に訪問し、その都度事業所の実情を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に一度行い、(職員・利用者参加)勉強会を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を疑われる事故や怪我には、その都度、話し合う場を設け、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要と思われる利用者が活用出来る様に、地域包括と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用中の料金改定などには、前もって文書でお知らせし、不安や疑問を生じたご家族には、個々に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・要望は面会時間き取り、事業所での出来事は、運営推進会議の資料として配布している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、職員会議やカンファレンスの時間を設け、意見や提案を聴き、耳を傾け、実践出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は、管理者や職員の日頃の努力や実績、勤務状況を把握し、理事長に報告してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質を向上させていけるよう、指導係を設け、職員育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度、合同カンファレンスを設け、管理者や職員が交流する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所間もない時期は、担当の職員が傾聴する時間を設け、本人の不安な事や要望に耳を傾け、信頼関係が築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に家族と話し合い、家族の気持ちを受け止めたり、耳を傾けて、信頼関係を築く努力をしている。(現在は、電話での対応をしている)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、福祉用具のレンタルや、各種のメーカーに相談し、利用者や家族に安心し、納得して頂ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活でのお手伝いを通じて、やりがいや必要とされている事を感じて頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が家族にお手紙を書いたり、ひかり便り等で近況を報告し、遠方の家族様にもより良い関係が築ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は、窓越しであるが、ご親戚の方や、ご近所の方の面会は、臨機応変に対応している。(コロナ禍で、積極的には、外出していない)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、車いすを押して頂いたり、計算ドリルを教え合ったり、食事の声かけをして頂いたり、孤立せず、助け合う事ができる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を持続し、必要に応じて本人や家族の相談や支援をフォローし、見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握し、職員会議やカンファレンスで意見を出し合い、利用者の思いや希望に添うように務めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や生活環境を把握し、居室には、ご家族の写真を飾ったり、馴染みのタンスやかばんを持ち込んで頂き、自分らしく生活出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の報告や、カンファレンスで心身の状態や本人の状況を把握し、チームとして支援出来る様に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い苑生活ができる様に、本人や家族の要望や希望に臨機応変に対応出来る様に努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日管理日誌・夜勤日誌・個人日誌に記録し、申し送り時報告し、情報を共用し日々の苑生活のケアに活かされる様に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所と連携し、柔軟な支援を臨機応変に対応出来る様に努めている、		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来苑や、民生委員の訪問等を行い、地域の方との交流もしていたが、現在は、コロナ禍の為、遠慮してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医院と連携し、専門医への受診時には、紹介状を準備して頂いたり、予約をとって頂いたりしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師には、往診時相談し、訪問看護師には、必要に応じて相談し適切な治療や受診が出来る様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の同意のもと医療機関に情報を提供し、退院した後も、家族や本人と話し合いながら、スムーズに苑生活が過ごせる様に、積極的な支援を行う様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、簡単な終末期のあり方について説明をしている。家族の希望に添うように、職員全体で情報を共有し、医療・看護・介護で連携し支援出来る様に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時、適切な対応できる様に、定期的な話し合い、慌てないで行動がとれるように訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の発生時備えて、食料や飲料水を備蓄している。避難訓練は、隣接する施設と定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を否定しない声かけをする様に指導している。不適切な言動をしていないかを常に確認し合う事が出来る様に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や好みを把握し、苑生活の中で、信頼関係を築くことが出来る様に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や就寝の時間は、自由に本人のペースで行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの衣類を家族にそろえて頂いている。散髪は、定期的に職員が行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、使い終わったコップ等の回収は手伝って頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が把握できる様に、チェック表を作成をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔を保つ様にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全て利用者は、トイレ介助を行っている。認知症状が進行している利用者は、定時にトイレ介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促し、便秘時には下剤などを使用し、排便のコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	身体の清潔を保つ事が出来る様に、入浴は、毎日行っている。体調により、シャワー浴や清拭で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、自室でくつろいでいる利用者もいる。ホールでテレビを見たり、おしゃべりしたり自由に過ごせる雰囲気づくりに務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行い、処方箋やお薬の説明書は、ファイルに閉じ、副作用や用法が把握出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物が好きな利用者さんは、編み物、歌が好きな利用者さんは、歌番組を見たり、勉強が好きな利用者さんは、計算ドリルを熱心にして過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減ったが、初詣やお花見、コスモス畑、等のドライブは行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症も患っているため、苑ではお金を所持していない様にしている。必要な物は、家族が購入してくれている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にお手紙を家族あてに出したり、家族からの電話は、取り次いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで過ごす時は、座席が決まっている。ホールや廊下の壁面に利用者さん本人が作成した塗り絵や張り絵を飾って季節感を感じとって頂いている。(鏡餅・お雛さま・七夕飾り・クリスマス)			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さん同士が居室でお話したり、日当たりの良い空間にイスを設置して過ごしている時もある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたダンスや、ご主人さまの仏壇や家族の写真を飾ったり、本人の好みに合わせて、居心地よく過ごして頂ける様に工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL維持の為に歩行練習や立位訓練等を実施している。介助が必要な利用者さんには、杖・歩行器や車いすを使用し、出来るだけ自立した苑生活が送れる様に努めている。			